

改訂の方向性<案> (概要版)

令和8年2月

国土交通省上下水道審議官グループ

1. マニュアル改訂の背景と方向性

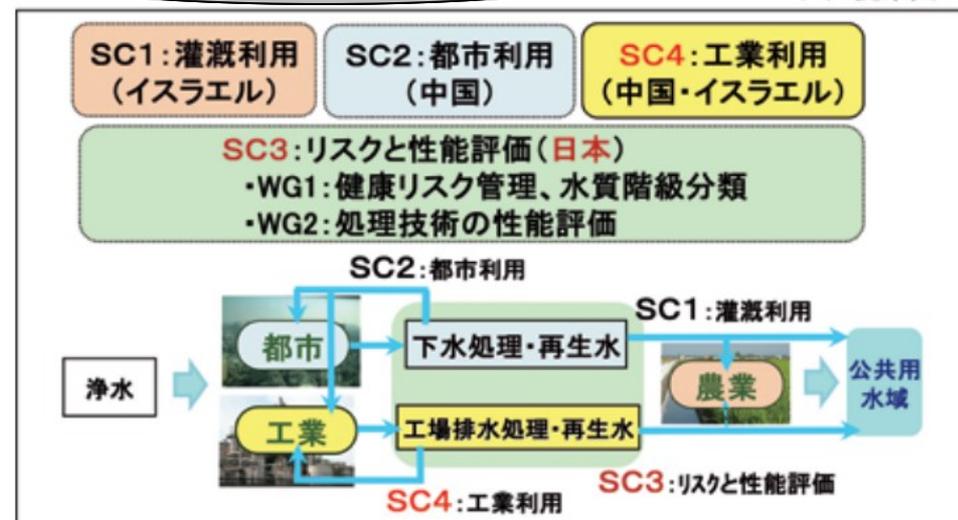
ISO 国際標準化の専門委員会TC282「水の再利用」が、2013年6月に日本が幹事国となり設立され、各スコープ（SC）に対して各国が提案を行い、規格化が進められている。

国内状況

- 国内における再生水利用に関しては、平成17年度に策定された「下水処理水の再利用水質基準等マニュアル」より見直しが行われていない。
- 水質汚濁防止法における排水基準の改定：大腸菌群から大腸菌へ変更されたが、再生水に対する基準の変更がなされていない。
- ISOの策定に対し、国内での基準等は特に対応していない。

ISO/TC282策定状況

():提案国



ISOの動きや排水基準の改定、また最近の動向を踏まえ現行マニュアルを改訂した「下水処理水の再生水水質基準等マニュアル」を作成する
合わせて、近年の事例を加え、「下水道施設における雨水利用に関する事例集（平成28年3月）」、「渇水時等における下水再生水利用事例集（平成29年8月）」の改訂を検討する

2. マニュアルの構成・内容

※赤字:今回追加事項
箱書き案は次回検討会で提示予定

章	(改訂版) 下水処理水の再生水水質基準 等マニュアル(案)	(現行) 下水処理水の再利用水質基準 等マニュアル	変更点
第1章 総説	<ul style="list-style-type: none"> ・背景・経緯 ・マニュアルの適用範囲 ・再生水利用システム導入時の基本的要件・考慮事項 	<ul style="list-style-type: none"> ・背景・経緯 ・マニュアルの適用範囲、 	背景としてISO/TC282の動き、ISOより基本的要件を追加
第2章 再生水利用に関する技術上の基準等の策定における検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・水需要及び再生水量の確認 ・安全性と社会的受容性 ← ・経済性評価、環境性評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生学的安全性 ・美観・快適性 ・施設機能障害防止 	現行マニュアル内容は「安全性と社会的受容性」に含む。ISOより経済性・環境性評価を追加
第3章 再生水利用に関する技術上の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・水質基準等及び施設基準 ・再生水利用者に対する表記の方法(事例等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質基準等及び施設基準 	大腸菌群数を大腸菌に変更し、その経緯を追加 再生水利用時の注意喚起の事例等を追加
第4章 再生水利用の実施に当たり必要となる考慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生学的安全性 ・美観・快適性 ・施設機能障害防止 ・信頼性 ・再生水利用の適切な促進に向けた留意点(管理方法等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生学的安全性 ・美観・快適性 ・施設機能障害防止 ・再生水利用の適切な促進に向けた留意点 ・異常発生時の対応 	現行マニュアル内容(美観確保、腐食・閉塞防止等)はほぼ変更無し ISOより衛生学的安全性に「健康リスク評価」を追加、信頼性を追加し考え方等を追記
第5章 再生水利用に関するモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・再生処理施設のモニタリング ・再生水利用システムのモニタリング ・異常発生時の対応 	—	ISOよりモニタリング手順、方法を追加。異常発生時の対応は、現行マニュアルの4章より移動
第6章 調査研究に関する今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の課題 	